

[年度]平成21年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名]カンキツ類廃棄果実に集まってくる獣類

[要約] 園地周縁部に廃棄したカンキツ類の果実はイノシシやサル等のエサとなる。廃棄の続いた3～6月には特にイノシシの出没頭数が多い。イノシシは夜間、サルは昼間に出没する。

[キーワード] イノシシ、サル、エサ、カンキツ、果実

[担当]果樹試験場 環境部

[連絡先]電話 0737-52-4320

[部会名]果樹部会

[分類]指導

#### [背景・ねらい]

和歌山県で鳥獣の餌付けとなっている農作物等の実態を把握する。和歌山県はカンキツ類を中心とした果樹園が多く、腐敗果実を園地周縁部に廃棄するケースもみられる。ここでは県内主要カンキツ類生産地である有田川町において、廃棄されたカンキツ類果実が獣類のエサとなっている状況を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

1. イノシシ、サル、タヌキが出没してカンキツ類の廃棄果実を摂食する。撮影された延べ9,593頭の獣類のうち、イノシシ93%、サル6%、タヌキ1%未満であり、カンキツ類果実を廃棄するとイノシシのエサとなるケースが多い。
2. イノシシは夜間に多く出没し、18～21時台に全体の70%がみられる。サルは日中に出没し、早朝（5～7時台）に55%、夕方（17時台）に21%がみられる（図1）。
3. イノシシの出没頭数は、カンキツ類果実の廃棄が続く3～6月に多く、廃棄がなくなる7月以降に激減するが、7月以降も3日に1回以上出没し、エサ場として執着している（図2）。
4. サルの出没頭数および出没回数は偏りが大きく、廃棄果実があっても出没しない時期もある（図3）。廃棄の続く3～6月であっても、新鮮な廃棄果実が無い場合はほとんど撮影されず、また廃棄果実が大量にあっても執着して滞在し続けない。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 本調査結果は、「獣類のエサを無くすためにカンキツ類果実を廃棄しない」ことを啓発する資料として活用できる。
2. やむを得ず園地内に果実を廃棄する場合は、電気柵やワイヤーメッシュなどで囲う。

[具体的データ]

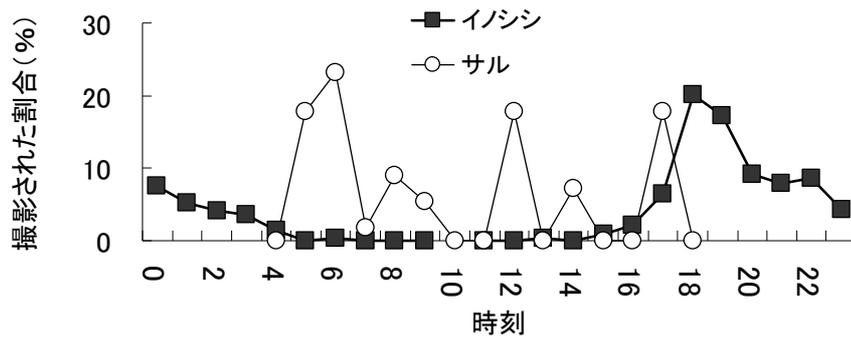


図1 イノシシとサルの時間別撮影頭数の割合

※ 平成 21 年 3～9 月、カンキツ園周縁部の果実廃棄場所に赤外線センサーカメラ (Game Spy I40、Moultrie Feeder 社製) を設置、動物を感知している間、動画 (明間 30 秒間、暗間 5 秒) と静止画を 1 分間隔で撮影し続ける設定とした

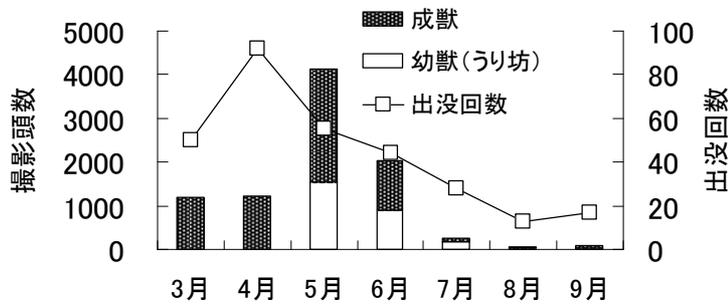


図2 イノシシの月別撮影頭数と出沒回数

※ 体表の縞模様の有無で成獣と幼獣を区別  
 ※ 21 分以上の撮影間隔で新たな出沒とする

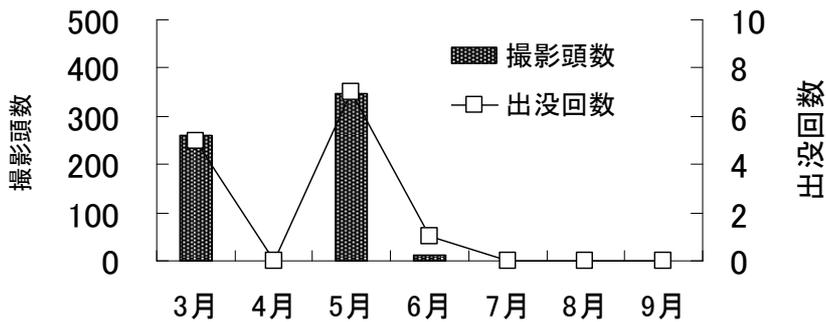


図3 サルの月別撮影頭数と出沒回数

※ 21 分以上の撮影間隔で新たな出沒とする

[その他]

研究課題名：農作物鳥獣害防止技術実証

予算区分：県単

研究期間：平成 21～23 年度

研究担当者：法眼利幸、横谷道雄、山本浩之、井沼 崇、増田吉彦

発表論文等：なし

HP 掲載の可否：可